

平成 30 年 10 月 21 日

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

学校法人森ノ宮医療学園
森ノ宮医療学園専門学校
自己点検・評価委員会
学校関係者評価専門部会委員会

学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校 自己点検・評価委員会 学校関係者評価専門部会委員会は、平成 29 年度自己点検・自己評価報告書に基づき、以下のとおり学校関係者評価を実施いたしました。

1. 学校関係者評価専門部会委員（「森ノ宮医療学園専門学校 学校関係者評価に関する自己点検・評価委員会規程施行細則」による選出区分）
 - ・鍼灸師または柔道整復師関連団体役員（同施行細則第 4 条第 1 項第 2 号）
 - 伊藤 久夫 氏（公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会会長）
 - 川口 靖夫 氏（公益社団法人大阪府柔道整復師会副会長）
 - ・本校卒業生（同施行細則第 4 条第 1 項第 3 号）
 - 赤丸 敏行 氏（森ノ宮医療学園専門学校卒業生）
 - ・本校に在籍もしくは卒業した学生の保護者または保証人（同施行細則第 4 条第 1 項第 4 号）
 - 浜田 暁 氏（森ノ宮医療学園校友会会長）
 - ・高等学校校長または高等学校校長経験者（同施行細則第 4 条第 1 項第 5 号）
 - 石黒 典男 氏（元大阪府立高等学校校長）

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

- 開催日時：平成 30 年 10 月 20 日（土）16 時 00 分～17 時 10 分
- 開催場所：森ノ宮医療学園専門学校 理事長室
- 出席委員：伊藤久夫、川口靖夫、赤丸敏行、浜田暁、石黒典男
- 欠席委員：なし
- 陪席者：清水尚道（校長）、葉山直史（教務部長）、松下美穂（鍼灸学科長）、伊黒浩二（柔道整復学科長）、矢納秀司（学務課長）

《基準 1 教育理念・目的・育成人材等》

- ・専門学校ならではの教育内容の一層の推進をお願いしたい。
- ・専門学校としての教育の質保証もお願いしたい。

《基準 2 学校運営》

- ・評価報告書は丁寧に作成されている。年々充実してきているのではないかと。
- ・貴校は先生方が一致団結している雰囲気がある。

《基準3 教育活動（鍼灸学科）》

- ・現状の国家試験は難しくなっているようなので、さらなる対応をお願いしたい。
- ・一般教養や学習の仕方などの初年次教育にも一層力を入れて頂きたい。
- ・学生との面談を頻繁に行っているということだが、学校のトップによる学生との面談も行い、どのような目的で入学し、今どこまで学習が進んでいるのかといったことを聞いてみてはどうか。
- ・規範意識も植え付けて欲しい。学生にはテクニックは当然だが何が患者の利益になるのかを知ってほしい。
- ・学術的なインテリジェンスを身に付けることのできる学校であってほしい。
- ・社会人の学生が減っていく流れにある。高校新卒の学生に対して今まで以上にしっかり教育してほしい。

《基準3 教育活動（柔道整復学科）》

- ・一般教養や学習の仕方などの初年次教育にも一層力を入れて頂きたい。
- ・柔道整復学科は外傷への施術にこだわって教育を行ってきたが、今後は高齢者のリハビリなど幅広い教育にも目を向けてはどうか。
- ・学生との面談を頻繁に行っているということだが、学校のトップによる学生との面談も行い、どのような目的で入学し、今どこまで学習が進んでいるのかといったことを聞いてみてはどうか。
- ・規範意識も植え付けて欲しい。学生にはテクニックは当然だが何が患者の利益になるのかを知ってほしい。
- ・学術的なインテリジェンスを身に付けることのできる学校であってほしい。
- ・かつてと比べて環境も変わってきている。業界の厳しさや資格取得の厳しさもあろうかと思うが、そういった学生をうまく受け入れて欲しい。
- ・社会人の学生が減っていく流れにある。高校新卒の学生に対して今まで以上にしっかり教育してほしい。
- ・介護系やトレーナーの方向に行く学生も増えてきているが、その為の勉強を学校ですっきりできるようにしてほしい。
- ・柔道整復師が自分たちの施術でいいのか、医者の方に患者を行かせるべきなのかの判断がきっちりできるような教育をお願いしたい。

《基準4 教育成果》

- ・治療院の現場は常に変化している。先生方におかれては最新の情報を得て常に意識を更新し続けて欲しい。
- ・国家試験合格だけではなく、医療に従事した後も活躍できる医療人を育成しているのは素晴らしい。今後もお願いしたい。
- ・学生にはリスク回避を含めて臨床現場の現状をしっかりと伝えて欲しい。
- ・卒業生がどれだけの活躍をしているのかというのが学校を評価する指標の一つであろう。

- ・これからも在学中はもちろん、卒業後も学生が志を持ち続けることができるような教育をお願いしたい。

《基準5 学生支援》

- ・目的を持って入学してきた学生の退学を避けることはできると思う。しっかりとした支援をお願いしたい。
- ・2年生以降の退学率が減少してきているのは評価できる。
- ・卒業生の支援もしっかりしているのではないかな。

《基準6 教育環境》

- ・卒業生の大半は貴校を卒業できてよかったと感じているのではないかな。

《基準7 学生の募集と受け入れ》

- ・鍼灸学科ははり師きゅう師のみの養成課程としては比較的多くの方に入学していただいております。健闘しているといえるのではないかな。
- ・柔道整復学科は入学者数が鍼灸学科に比べてやや厳しい。しっかりとした学生募集をお願いしたい。
- ・ホームページは貴校への入学を検討している方が見ていると思うが、その段階では職業や業界等に関する知識は無いに等しい方もおられるかもしれない。そういった人たちにも伝わるような内容にしてほしい。
- ・薬剤師や獣医や歯科医といった専門職の方が、もっと入学してもらえるような広報はできないかな。
- ・留年者や退学者を一人も出さないような教育を前面に出すことができればさらに入学者も増えるのではないかな。
- ・入学者に資格に対するモチベーションを持ってもらうような取り組みが大切だ。

《基準8 財務》

- ・特に問題はないのではないかな。

《基準9 法令等の遵守》

- ・しっかりやっていると感じる。

《基準10 社会貢献》

- ・サークル活動などによる社会貢献は比較的活発に行えている。ボランティアを経験したい学生は多いと思われるので、さらなる活性化をお願いしたい。
- ・研修会などのための会場として教室を提供していただいているのはありがたい。業界団体として感謝している。

以上